

平成27年度 ちばっ子「学力向上」総合プラン《評価表》

アクション1 「教師カトップ」チャレンジプラン（「授業力向上」の視点）

◎教師力向上の取組の成果が上がっているといえるか

事業名
11 「千葉県教職員研修体系」に基づく研修事業
12 ちば「授業練磨の公開日」の実施
13 「魅力ある授業づくりの達人」認定事業の推進
14 「若手教員育成推進員」活用事業の推進
15 「私の授業レシピ(秘訣・秘伝)」活用事業の推進
16 「総合的な学習の時間のコーディネーター」養成
17 「理科の観察・実験指導」の推進

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者評価		評価コメント	評価
ア	教職員研修の改善が図られ充実したものとなっているか <div style="text-align: right;"><u>11-a</u> <u>14-a</u></div>	初任者を含め、若年層を対象にした教職員研修が計画的・継続的に実施されるようになり、管理職や参加者等への各アンケートからも肯定的な意見が多く、充実した研修であるとの回答を得ている。	a
イ	教師力向上をけん引する人材の育成・発掘ができていますか <div style="text-align: right;"><u>13-b</u> <u>16-b</u> <u>17-b</u></div>	「魅力ある授業づくりの達人」による取組件数が充実したとともに、各研修の計画的な実施により専門的な指導力を高める取組がなされた。	b
ウ	授業力向上を図る取組の成果が上がっているといえるか <div style="text-align: right;"><u>11-a</u> <u>12-b</u> <u>13-b</u> <u>14-a</u> <u>17-b</u></div>	「若手教員育成推進員」活用事業などの各事業の取組により、地域に根ざした研修や教員相互の授業参観などが実現したとともに、多様な研修の実施により、成果が見られる。	b
エ	教師力・授業力向上のための資料提供は十分にできているか <div style="text-align: right;"><u>15-b</u></div>	毎年作成される教員向けの資料が蓄積されるとともに、検索ホームページの改善により活用の充実が図られた。併せて、Act2の児童向けの資料集の作成により充実することができた。	b

○「アクション1」の内部評価（学力向上PT会議コメント）

教師力向上のための取組が継続的に実施され、人材育成、研修の充実が図られている。

◇「アクション1」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア 「a」評価は妥当である。(11・14)

- ・改訂された現行の「千葉県教職員研修体系」は、非常に優れたものである。
- ・研修受講者のアンケートでも約80%が肯定的な評価をしているので、a判定は妥当である。しかしながら、20%近くが肯定的でない評価をしている点は、今後も検証が必要である。
- ・肯定的でない理由を推定すると、「受講者の意識が低い」「受講者のニーズにマッチした講師でない」ことが考えられる。受講者の意識については、研修の進め方やアンケートの項目や選択肢の内容も含めて今後の改善が必要である。

【アンケート項目の例についての提言】

- ・研修会で学んだ内容を活用してみようと思うか。(受講者の意識)
- ・研修会の内容は、理解しやすかったか。(講師の設定)
- ・この研修会は必要か。(研修の在り方)

観点イ 「b」評価は妥当である。(13・16・17)

- ・学校現場を牽引する年代(中堅層：ミドルリーダー)の教諭が少なく、授業の達人のなり手も少なくなっているのではないか。
- ・中堅層に当たる15年目前後の教諭のスキルを向上させ、自信を持たせる取組(研修)が必要であろう。

観点ウ 「b」評価は妥当である。(11・12・13・14・17)

- ・若手教諭の研修体系は連続性のある研修もあって充実していると感じる。高等学校における「授業練磨の公開日」事業は、形骸化しているようである。管理職への啓発を踏まえ、異校種の公開研究会に教員が参加できるような体制づくりが必要である。
- ・観点イとも関連するが、18歳に選挙権が与えられ、高校3年生にどのようなスキルが求められるかを考える必要がある。K-12・K-16を踏まえ、校種を越えて児童生徒の発達段階を知ること必要である。
- ・総合的な学習の時間のコーディネーター研修等を通して、政治や選挙権についても総合的な学習の時間などでも扱えるような研修をする必要があるのではないか。
- ・ちば「授業練磨の公開日」において、授業を公開している人数等が全教員に対して何%になるのかを提示し、報告書を改善して欲しい。

観点エ 「b」評価は妥当である。(15)

- ・資料が充実し、数も多いため使いやすい。今後も継続してデータを蓄積することが期待される。

※K-12……幼稚園(KindergartenのK)から高等学校を卒業するまでの義務教育及び義務教育後中等教育期間のこと。

K-16……大学教育段階まで含めたもの。

幼児教育、小・中・高等学校・大学という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして用いられる。

アクション2 「子どもたちの夢・チャレンジ」サポートプラン（子どもたちの学びの視点）

◎子どもたちの学習を充実させるための取組の成果が上がっているか

事業名
21 千葉県学習サポーター派遣事業
22 「ちばっ子チャレンジ100」の作成・活用（小学校）
23 「学びの突破口ガイド」の活用
24 「ちばのやる気」学習ガイドの活用（中学校1～3年）
25 「SSH」などの活用による理数教育の充実

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者評価		評価コメント	評価
ア	子どもたちのための学習資料は充実しているといえるか <u>22-b</u>	「ちばっ子チャレンジ100」の低学年向けの作成が計画的に実施されるとともに、Webへの掲載準備がなされている。	b
イ	子どもたちのために作成した学習資料の活用状況はどうか <u>22-b</u> <u>23-b</u> <u>24-b</u>	様々な機会を活用して各学習ガイドの積極的な周知に努めたとともに、効果的な活用事例を紹介したことにより、何らかの形で活用している学校の割合が高い。	b
ウ	子どもたちの学習意欲を高める調査・研究・指導がなされているか <u>21-a</u> <u>25-a</u>	学習サポーターによる個に応じた指導等により、学習意欲が高まる取組が継続的になされている。 SSH指定校の理数教育推進の取組や理数教育の成果を競う「科学の甲子園」等の実施状況により、学習意欲の向上を図る指導がなされている。	a

○「アクション2」の内部評価（学力向上PT会議コメント）

低学年向けの「ちばっ子チャレンジ100」の作成が終了したことで、「学びの突破口ガイド」、「ちばのやる気」学習ガイドの各学習ガイドを含め、計画していた資料が完成し、対象学年数や内容の充実を図ることができた。

本年度で学習ガイドの作成が終了となるため、今後は、効果的な活用事例を紹介するなど、活用の充実に向けた取組が必要である。

◇「アクション2」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア 「b」評価は妥当である。(22)

- ・全ての学習資料の作成が完了し、評価は妥当である。

観点イ 「b」評価は妥当である。(22・23・24)

- ・アクセス数だけではなく、アンケートを実施し、利用状況を調査しており、活用状況も高く、評価できる。

観点ウ 「a」評価は妥当である。(21・25)

- ・SSH等の活用による理数教育では、事業の充実だけではなく、SSHに参加した高校生が小中学校で教える等他の事業との関連が生まれていることは高く評価できる。
- ・学習サポーターと他の講師等との混同に留意して、運用を促して欲しい。

アクション3 確かな学びの礎（いしずえ）プラン

（読書活動充実と家庭学習環境づくりの視点）

◎読書活動推進や家庭学習環境づくりのための取組の成果が上がっているか

事業名
31 読書活動の推進
32 「家庭学習のすすめ」サイトの活用促進

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者評価		評価コメント	評価
ア	学校図書館が様々な学習で活用され、学力向上や読書活動推進の取組の充実につながっているか <u>31-b</u>	各学校の自己評価による優秀・優良学校図書館の認定数が増加するなど、読書活動への取組が推進されている。研修会の実施や、高校を含めた研究協力校の効果的な取組事例の紹介などにより、積極的な図書館の活用につながってきている。	b
イ	サイトを通じて家庭学習の取組についてのはたらきかけがなされ、学習の習慣化につながっているか <u>32-b</u>	中学生版を新設するなど、家庭学習サイトの充実が図られている。 資料の追加掲載などにより、アクセス数が増加し、利用・認知度が高まってきた。併せて、家庭学習への取組が増加していることが伺える。	b

○「アクション3」の内部評価（学力向上PT会議コメント）

学校図書館の研修の実施方法や家庭学習サイトの中学生版の新設などの取組の工夫により、新たな成果が現れてきている。さらに取組の周知等を行い充実を図りたい。

◇「アクション3」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア 「b」評価は妥当である。(31)

- ・評価コメントを見る限りでは、a評価でよいように感じる。しかしながら、11学級以下の学校すべての司書教諭の発令や学校司書の全校配置などは、まだ実現していない。学校図書館の活用には、司書教諭・学校司書の存在が大きい。特に学校司書の配置は、蔵書構成や貸出冊数等に大きな影響があるため、県内の全校配置への努力が一層望まれる。
- ・自治体によっては、司書ボランティア（学校支援コーディネーター）が配置されている。その場合、ボランティアに対する研修の実施などが必要である。千葉県教育委員会として各自自治体への指導助言等が必要ではないか。
- ・学校図書館には学習センター、情報センターとしての機能もある。これらを踏まえ、学校図書館や外部の図書館を読書活動の推進だけでなく、どう活用するかを考えてはどうか。更に、「学校図書館活用」と銘打った場合、読書活動だけでよいのか。情報活用（インターネット・新聞等）の必要性については、総合教育センターから発行された冊子にも小・中学校の実践事例が掲載されている。
- ・平成28年度「ちばっ子『学力向上』総合プラン」に「読書活動の推進」と掲載があるが、読書活動と学校図書館がどのように学力向上に関わるのかについてよく検討して欲しい。

観点イ 「b」評価は妥当である。(32)

- ・内容も充実し、関係機関への周知が図られていることを感じるが、本年はアクセス数が横ばいであることが課題である。
- ・アクセスしない家庭について、「しない」のか「できない」のかを切り分け、できない家庭への支援については、社会福祉士・ソーシャルワーカー等とも連携して対応策を講じる必要があるのではないか。

アクション4 興味ワクワク「体験学習」推進プラン（体験学習による意欲向上の視点）

◎子どもたちの学習意欲を高めるための体験学習の取組が充実しているか

事業名
41 「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業の推進
42 「小・中・高連携の特別授業」による体験学習の促進
43 特別非常勤講師配置事業
44 学びの「総合力・体験力」コンテストの開催

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者評価		評価コメント	評価
ア	子どもたちの体験学習の機会の充実が図られているか <u>41-a 42-b 43-a 44-a</u>	各事業を活用した学校に対する報告書やアンケート結果は、大変良好な回答であり、実施校では取組内容が工夫され、充実した実践につながっている。	a
イ	学校等で体験学習の重要性についての理解が図られているか <u>42-b 43-a 44-a</u>	学びの「総合力・体験力」コンテストの応募数が昨年度に引き続き130件程度となっている状況からも、体験学習の重要性への理解が図られてきている。	a
ウ	体験学習により子どもたちの学習意欲が向上しているといえるか <u>41-a 42-b 43-a 44-a</u>	各事業の実施状況、学びの「総合力・体験力」コンテストの応募数や作品の内容・質から、学習意欲の向上が見られ、体験学習が子どもたちの学習意欲の向上をもたらしている。	a

○「アクション4」の内部評価（学力向上PT会議コメント）

体験学習の重要性の理解や内容の充実が図られ、学習意欲向上に効果が見られる。

◇「アクション4」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア 「a」評価は妥当である。(41・42・43・44)

- ・地元のコミュニティ形成に貢献している点もあり，地域貢献の観点からも高く評価できる。
- ・「お兄さん，お姉さんと学ぼう」事業では，評価の視点を次のように広げて欲しい。
 - ① 参加した高校生がどのように感じたのかを提示してほしい。
 - ② 県立学校の教員基礎コースが設定されている生徒がどのくらい参加しているのか，また，参加後に，キャリアをどのように考えたのかを有機的に検証してほしい。本事業のアピールにつながるのではないか。
 - ③ 事業に参加した小学生の意識を把握してほしい。これらを検証し，本事業の良さを広く他県にも広めていってもよいであろう。

観点イ 「a」評価は妥当である。(42・43・44)

- ・応募件数も年度ごとに増している。どのようなことが行われたことによって件数が増えたのか検証して欲しい。今後に期待する。

観点ウ 「a」評価は妥当である。(41・42・43・44)

- ・県のような事業を知らない学校現場もあるので，事業とその効果を含めて更に周知を進めることで，事業の成果も上がるのではないか。

アクション5 「学力向上」検証プラン（「PDCA」の視点）

◎評価・検証システムが有効に機能し、各学校の学力向上につながっているといえるか

事業名
51 「学力・学習状況」検証事業
52 「学力向上交流会」の開催
53 「学力向上推進会議」

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者評価		評価コメント	評価
ア	「検証協力校」において、学力向上に向けた取組が充実していたといえるか <u>51-b</u>	分析ツールの活用や結果分析に関する研修会の実施などにより、「検証協力校」での具体的な取組がなされ、3年目のまとめに向けた取組に結び付いている。学力向上交流会の分科会等で実践発表を行うなど取組成果を周知することができた。	b
イ	「学力向上交流会」の充実が図られ、各学校等において「ちばっ子『学力向上』総合プラン」の認識が広まったといえるか <u>52-a</u>	担当者会議を開催したことで、各教育事務所による企画・運営の工夫がなされ、内容の充実があり、交流会の趣旨を反映した内容となってきた。アンケートからは、分科会等の意見交換が充実し、学力向上施策の浸透が図られ、指導法を自校へ持ち帰るなど、交流会が学力向上への取組に役立つものとなっていることがわかる。	a
ウ	「学力向上推進会議」の教育振興部指導課の企画・運営方法は適切であり、施策の充実につながっているか <u>53-b</u>	学力向上交流会や各事業の取組について委員による視察が積極的に実施されるようにするとともに、評価方法等に関する改善など、会議の運営等に工夫が図られている。	b

○「アクション5」の内部評価（学力向上PT会議コメント）

昨年度の提言等を生かし、改善に向けた取組に努め、概ね事業目的を達成することができている。

◇「アクション5」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア 「b」評価は妥当である。(51)

- ・協力校になると、当初は戸惑いもあるようだが、検証を進める過程で教職員の意欲が向上し、子ども達が主体的に学習に関わるようになっていくことがわかる。
- ・様々な学校があるが、それぞれのアプローチの仕方をそれぞれが発信し、共有することに意義がある。今後も継続した取組が大切である。

観点イ 「a」評価は妥当である。(52)

- ・異校種間の交流があり、中・高等学校教諭は小学校教諭から学ぶことが多い。内容が盛りだくさんで、委員として参加すると一つずつゆっくり参観できないが、他の参加者には、多くの展開があることで、それぞれのニーズにあった展開事例を見つけていくことができるとよいと思う。
- ・各地域の課題等は異なるが、異校種の交流は大切である。全国的に見てもよい取組であるので、ぜひ継続してもらいたい。
- ・教育事務所開催の交流会の分科会では、事前に会の趣旨をよく説明してその内容を設定させる必要がある。

観点ウ 「b」評価は妥当である。(53)

- ・委員として実際に公開研究会や各事業に参加することで、事業内容をよく知ることができ、この会議の目的が達成されていると感じる。
- ・評価法としては担当者評価、庁内プロジェクトチーム評価、学力向上推進会議による評価と3段階に渡り、手が込んでいるが、評価法として全国的に優れている。
- ・一般的に評価となると、事業ごとのそれぞれの達成目標の個別評価に終わったり、プランごとの事業評価を束ねるだけに終わったりすることが多い。一方、本事業では、まず個別に事業を評価し、それをプランごとに新たに設定した観点をを用いて評価する方法を取っている。このことで、個別の評価自体の妥当性自体を問い直すことのできる仕組みになっている。更に、PDCAサイクル及び評価システム全体の適切性をメタ評価するために、本委員会が設置されている。そうすることによって、評価活動が陥りやすい粉飾性や自己満足を抑制している。今後も先駆的な取り組みとして充実させていきたい。

<総合評価> 「ちばっ子『学力向上』総合プラン」

◎「ちばっ子『学力向上』総合プラン」は各学校における児童生徒の学力向上の取組の活性化につながっているといえるか

※ ちばっ子「学力向上」総合プランの全体を評価する。

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者評価		評価コメント	評価
ア	各プランの評価が適正になされているか 全体	評価の時期の関係から、中間とりまとめとして実施せざるを得ない状況にある事業もあるため、評価の観点や検証方法の改善に努めた。	b
イ	前年度の評価を生かした今年度の改善の成果はどうか 全体	前年度の評価を生かした取組の改善により、各事業の進展がみられる。評価指標の工夫等により、さらに改善につなげたい。	b
ウ	各アクションを総括しての達成度はどうか 全体	各事業は、概ね満足できる状況にある。 今後、施策の方向性や学校現場のニーズに対応できるよう一層の改善を図る必要がある。	b

○ちばっ子「学力向上」プラン全体の内部評価（学力向上PT会議コメント）

様々な機会を活用し、学力向上施策や各事業について周知に努めた結果、事業に取り組む学校数も増え、概ね進展が図られている。

◇ちばっ子「学力向上」プラン全体に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア

- ・補助資料は各所への資料提供にも対応できる内容とすることによって、効率的に作業を進めていくとよい。
- ・事業評価を a とするならば、具体的な数値データをできるだけ補助資料として提示して欲しい。
- ・より客観的なデータを増やすことで説得力が増し、広くアピールできる評価資料になるであろう。
- ・評価の観点や検証方法の改善に努めたとあるが、具体的な例示がないと比較ができない場合がある。
- ・データは表だと把握しづらいので、できる限りグラフ化して提示して欲しい。

その他

- ・「ちばっ子『学力向上』プラン」全般は、非常に素晴らしいプランである。広くアピールしていくべき取組だと感じる。